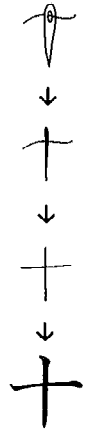


# 十

二年  
画数 2  
筆順 一十  
オン ジュウ・ジツ  
クン とお・と

### 成り立ち



もとは「針」のかたちをあらわしたもので、「はり」といういみの字でした。

かずをあらわす字は、「一・二・三」などのうちはかんたんにつくれますが、かずがおおきくなるとなかなかうまくつくれません。「ジュウ」もそうでした。

こういうときには、たいてい、「おなじ音」のことはをかきつけてつかいます。これを「仮に借りる」といういみで、「仮借」といいます。

「はり」と「ジュウ」と、中国ではおなじ音でした。それで、「十」を「ジュウ」のいみにつかうようになりました。「十」が「はり」と「ジュウ」とにつかうのでまぎらわしいために、「はり」は「金へん」をくわえて「針」としたため、「十」は「ジュウ」になりました。

### 使い方

▽ばくのばんは「十ばんめ」です。  
▽あのひととかけっこしたら、「十かい」に「一かい」もかつことはできません。

▽あのひとのすることは、「十に一つ」のまちがいない。「十にん十いろ」のかおぶれ。

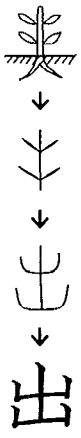
### 熟語例

▽十中八九（十のうち八から九までといういみで、だいたいまちがいない、といういみにつかいます。）  
▽十分（十のうち十までといういみで、すこしもふそくがない、といういみ。かんぜん。「充分」ともかきます。）  
▽十干十二支（むかし、「とし」や「ひにち」をあらわすのにつかったもの。十干は、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸。十二支は、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥。これを、「甲子」というように、十干と十二支をくみあわせると、六十のくみあわせができます。としては六十年でもともにもどりますので「還暦（暦がもとにもどるいみ）」といいます。）  
▽十戒（ころしてはいけない、ぬすみをしてはいけない、など、ひととしてはいけない十のいましめ）

# 出

二年  
画数 5  
筆順 一十中出  
オン シュツ・スイ  
クン でりる・だりす

### 成り立ち



「つち」のなかから、くさがめを「だした」すがたをあらわしたもので、「だす」ということばをあらわした字です。

「めを「だす」ことは「めが「でる」ことですから、「でる」というよみかたもあります。

むかしは、「でる」といういみのときには「シュツ」とよみ、「だす」といういみのときには「スイ」とよむしゅうかんがありました。いまでも「出納」ということばは、このしゅうかんにしたがつてよまれています。

### 使い方

▽まちに「出る」ついでに、てがみを「出し」てください。  
▽まいにち「出勤」して、おかねの「出納」のしごとをしています。

### 熟語例

▽出席（「席に出る」こと。「学校にいくこと」や、「なにかのあつまりに出ること」につかいます。席は「すわるところ」です。㊦「欠席」）  
▽出題（「問題を出す」こと。）  
▽出世（「世に出る」といういみで、「しやかいに出て人になみとめられるようになること」をいいます。）  
▽輩出（あとからあとからとつづいて世に出ること。㊦「あのちほうはいじんがよく輩出する。」）  
▽出身（うまれたとち、まなんだ学校、けいれきなどをいいます。㊦「とうきょうと出身、けいおうだいがく出身、きょういん出身」）  
▽出勤（「勤めに出ること。㊦「欠勤」）  
▽出納（納は「入れる」こと。「出し入れ」ということばですが、「お金の出し入れ」によくつかいます。）